

今冬季のオホーツク海の海氷状況

麻生正 (札幌管区気象台予報課)

1.はじめに オホーツク海における海氷の広がりは一年ごとに大きな変動を示す。今冬季の海氷面積は1966年以降の最小で、オホーツク海中央部は海氷域とならなかった。

2.今冬季の経過 オホーツク海北面部での結氷は11月初旬に始まり、次第に氷域を広げて北部や樺太東岸に伸びたが、12月中の海氷面積は平年の4~5割であった。1月、2月においても海氷面積は平年の5~6割で、オホーツク海中央部の海面は最後まで海氷域とならなかった。3月中旬に海氷域は81万km²で最大となったが、これはオホーツク海全面積の53%にすぎず、1966年に衛星で観測を始めて以来の最小であった。

3.気象状況 海氷域の変動と比較するために冬期間の低気圧分布を調べた。図1は海氷域が広がる12~2月と違って1984年と、海氷面積の最も多かった1978年と比べたものである。斜線を施した部分は各月末の海氷域で低気圧は1010mb以下の、緯度20°経度10°幅の単位領域に入るものを数えN28~64°、E130~170°の範囲で調べた。図1をみると低気圧分布の大きな違いは1月と2月に現れている。1984年1月は東経150度でオホーツク海中部に低気圧が多く、このため北部では東よりの風になつて海氷域が海岸部から沖合へ広がらなかった。これに反して海氷面積が1月に多くなった1978年はカムチャッカの東に発達した低気圧が多く、大陸からの寒気が中央部へ向かっている。2月は1978年と比べて東経160度で低気圧の多い場所が5~6°南に偏っており、オホーツク海中央部で北西の季節風が少なくなっている。このように今年も、低気圧の経路の変化で大陸からオホーツク海への北西の季節風が弱いため、海氷面積の少なさにつながったと

考えられる。

図1.
低気圧分布
と海氷域

